

## 篠路小学校 150 周年 祝辞

札幌市立篠路小学校の開校 150 周年、誠におめでとうございます。

篠路小学校保護者と先生の会・PTA を代表して、心よりお祝い申し上げます。

私からは、私たちが住むこの篠路・拓北地域の歴史と重ねて、篠路小学校の未来に向けた期待を、お話したいと思います。

この篠路・拓北地域は、まだ徳川幕府のあった江戸時代の終わりに、開拓者が入植して、篠路村として発展してきました。

その篠路村に、今から 150 年ほど前の明治 5 年、児童 15 人ほどの「篠路教育所」が開設されました。

先人たちは、度重なる大雪や、大雨による洪水など、数多くの災害等の困難に立ち向かいながら、この学校で学び、篠路を発展させてきました。

「明治」～「大正」～「昭和」と時代が移り替わり、篠路が発展する中で、学校の規模は徐々に大きくなってきました。

特に、「昭和」の時代には、団地の拡大に伴い、人口が急増し、小学校の学区が分割され周りに新しい学校が新設されてきました。

「茨戸小」、「太平小」、「篠路西小」、「拓北小」、「百合が原小」など、分割された学校へと伝統を伝えながら、今の篠路小学校へと移り替わってきました。

「平成」の時代に入ってから、篠路の人口が増える中で、平成 27 年には、新校舎が完成して、篠路児童会館が併設され、グラウンドも再整備されました。

新たに「令和」の時代に入った今、子ども達は、この素晴らしい教育環境の中で、充実した学校生活を送ることができています。

この歴史ある篠路小学校の教育は 150 年の間、世代を超えて、脈々と受け継がれてきました。

そして、篠路・拓北の数多くの子ども達が、この篠路小学校で学び、社会へと巣立ち立派な社会時となって、篠路・札幌の発展を支えてきました。

これもひとえに、篠路・拓北の地域の皆さま、保護者の皆さま、そして教職員の皆さまのおかげと厚く、御礼申し上げます。

先人たちが開拓し、苦難を乗り越え、発展してきた篠路の歴史に思いをはせながら、10 年後、20 年後、そして次の大きな節目の 50 年後を想像してみましょう。

その時、この篠路小学校、篠路・拓北の地域、ひいては、札幌がどうなっていくのかと心配しつつ、一方で、期待せずにはられません。

今後、日本全国で少子高齢化がさらに進み、この篠路・拓北地域でも、お年寄りが増え、子ども達の人数は減っていくことになります。

一方で、これから始まる篠路駅東側の再開発や、JR の高架化、コミュニティセンター

近隣の空き地の開発で、篠路・拓北の街並みは変わっていきます。

その中でも、篠路小学校の教育の営みは変わらず続き、地域の方々や保護者、教職員の皆様に守られながら、子ども達は育っていくことでしょう。

これからの篠路・札幌の歴史を作る主役、それは今ここにいる皆さんです。

是非、これからも篠路小学校で、大いに学び、たくさん遊び、多くの友達を作り、様々な経験を積んでください。

そして、その経験をもとに、篠路・札幌の未来を作っていくって欲しいと思います。

そんな未来ある皆さんと、将来の子ども達が、この篠路小学校ですくすくと成長し、立派な大人になり、素敵な未来を作っていくことを祈念して、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

令和3年11月10日

札幌市立篠路小学校 PTA 会長 菊地 智昭